

2000年度中部大学国際地域研究所活動記録

第3回中部大学国際地域研究所・立命館大学国際地域研究所共同シンポジウム（2000年12月2日）

テーマ「グローバリゼーションとガバナンスの危機」

現在、時代のキー・ワードとなった観のある「グローバリゼーション」は、情報伝達技術の飛躍的發展により、時間と空間を極小化しつつ、国際金融市場をはじめとして様々なレベルで、人間の生活の相互結合性と相互依存性を急速に高めている。こうした世界の一体化はヒト、モノ、カネのトランスナショナルな移動を生み、新しい経済活動や文化の様式を編成する一方、これまでの主権国家や国民経済の存立を大きく揺るがし、「ガバナンス（統治）の危機」と呼ぶべき諸問題を引き起こしている。今回で3回目を数える立命館大学国際地域研究所との共同シンポジウムでは、グローバリゼーションへのアプローチを「世界システム」「国家」「個人」という三つのレベルから試みた。以下の通り、様々な専門領域から国際色豊かな報告者が集い、活発な討論が展開された。

開会挨拶：大久保史郎（立命館大学国際地域研究所長）

第1セッション「グローバリゼーションと世界システム」

司会：朝日稔（立命館大学国際関係学部）

報告者：James H.Mittelman（アメリカン大学教授・立命館大学客員教授）

“Globalization and the world system”

報告者：Victor Lopez Villafane

（モンテレイ工科大学助教授・立命館大学客員教授）

“Future of the world system”

討論者：中達啓示（立命館大学国際関係学部教授）

討論者：佐々木康夫（南山大学大学院経営学研究科非常勤講師）

第2セッション「グローバリゼーションと国家」

司会：高山智（中部大学国際関係学部教授）

報告者：吉田昌夫（中部大学国際関係学部教授）

「グローバリゼーションの影響としてのアフリカ債務問題」

報告者：鄭章淵（駒澤大学経済学部教授）

「IMF管理体制下の韓国経済改革」

討論者：毛利良一（日本福祉大学経済学部教授）

討論者：文京洙（立命館大学国際関係学部教授）

第3セッション「グローバリゼーションと個人」

司会：松下冽（立命館大学国際関係学部教授）

報告者：馬橋憲男（中部大学国際関係学部教授）

「グローバル・ガバナンスと市民参加」

報告者：佐藤誠（立命館大学国際関係学部教授）

「南アフリカの小火器拡散問題にみる平和構築と人間の安全保障」

討論者：角田勝彦（中部大学国際関係学部教授）

討論者：シー・ブーン キム（シンガポール国立大学東アジア研究所上級
研究員・立命館大学客員教授）

閉会挨拶：吉田昌夫（中部大学国際地域研究所長）